

横浜市立市民病院

〒221-0855 横浜市神奈川区三ツ沢西町 1-1
TEL 045-316-4580 FAX 045-316-6580



令和4年の横浜市民病院は、令和3年と同様に新型コロナウイルスの感染への対応に明け暮れた1年でした。感染者数が増加するたびに、入院患者数や手術数の制限が行われ、入院稼働額も思うようには伸びませんでした。一刻も早い新型コロナウイルスの感染終息が望まれるところです。

令和4年の外科は、消化器外科6人（うち大学ローテート3人）、炎症性腸疾患外科4人（うち大学ローテート1人）、乳腺外科4人（うち大学ローテート3人）のスタッフと4人の後期研修医、2ヶ月毎にローテートする3人の初期研修医で診療を行いました。外科一同、外来、病棟、手術、救急診療と日夜仕事に励んでいます。

さて、外科が消化器外科、乳腺外科、炎症性腸疾患外科の3つに別れてから14年経過しました。2022年の総手術件数は、外科全体で1296例でした。内訳は消化器外科約851例、炎症性腸疾患外科約287例、乳腺外科約158例でした。

消化器外科では、大腸癌手術症例数は前年とほぼ同数で、腹腔鏡下の手術の割合は89%でした。平成29年から導入した腹腔鏡補助下直腸固定術（直腸脱の根治術）は94例行いました。

胃癌手術症例数はやや減少し、肝胆膵領域では膵頭十

二指腸切除術12例行いました。

乳腺外科は、前年より大幅に増加しました。これはスタッフの人数が増えたことや横浜市乳がん連携病院の指定を受けたことが原因と考えられます。

炎症性腸疾患外科は、前年に比べ手術件数が減少しましたが、従来通り関東圏はもとより全国から患者を受け入れています。

緊急手術は187例で前年と前年より増加しました。急性虫垂炎は83例と昨年とほぼ同数でした。しかし、現在のスタッフの人数から考えると現在の手術件数が限界と思われます。

2020年度から始まった初期研修医のプログラム（外科コース）には、2022年度も多数の応募の中から2名がマッチングしました。しかしながら、2022年度の専攻医は3人とも他の施設からの応募でした。当院の初期研修プログラムから当院の専攻医を選択する研修医が、一人でも多くなることを期待しています。

今後も地域中核病院として周辺の医療機関と連携を密にし、より一層地域医療に貢献していきたいと思えます。これからも、ご指導ご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

（文責：望月康久）



2022年度の人事異動では、川島（圭）が退任し、代わりに中崎が着任しました。診療体制は、山岸、牧野、菅江、大田、浅野、森に加えて、外科専攻医3年目の河内と東京医科歯科大から2名派遣を加えた9名で診療しました。例年同様に、中崎、河内と東京医科歯科大からの2名が呼吸器外科と救急外科をローテートし、肺・縦隔手術と緊急手術、外傷治療に携わりました。

2021年1月～12月の外科手術件数は、総数895例（2021年900例）で、定時手術605例、緊急・臨時手術290例でした。緊急手術は若手外科医が担当し、手術適応・説明と同意・手術・術後管理を一貫して行い、修練の場となっています。領域別の手術件数は、乳癌170例、胃癌41例、結腸癌82例、直腸癌30例、原発性肝癌7例、転移性肝癌4例、胆道癌7例、膵癌16例、胆石症109例、虫垂炎98例、鼠径ヘルニア113例でした。今年度も乳癌症例は増加し年間170例となりました（前年+31例）。それに伴い乳腺外来も患者さんが非常に多く、月曜日は浅野が固定で、火曜日は外勤医師が診療し、菅江の負担軽減に努めています。胃癌は年々減少傾向ですが、LDGはガイドラインに則り年間17例施行しました。大腸癌に対する腹腔鏡手術は86例（76.8%）、ロボット支援手術21例（18.8%）、開腹5例

（4.5%）でした。肝・胆・膵は、転移性肝癌が例年より少なかったですが、その他は例年通りで、腹腔鏡下での肝切除や膵体尾部切除も安全に行っています。

今年も新型コロナウイルスの影響で、地域の小学生と保護者を対象とした「病院お仕事体験ツアー」、および湘南西部の外科医師を対象とした「湘南手術手技セミナー」の開催は見送りました。2023年5月に5類感染症へ移行した際には、是非復活して地域貢献したいと思っています。一方、本年は地域の開業医の先生方と消化器内科、外科合同カンファレンスが復活し、2か月に一度院内で紹介患者さんの情報交換と症例検討会を行い、顔の見える交流の重要性を再認識しました。

学術関連は、学会発表が51演題（シンポジウム1演題、パネルディスカッション1演題、ワークショップ1演題）で、筆頭論文発表は2題でした。筆頭論文に関しては、2010年からの統計で初めてとなる英文論文を発表することが出来て大変うれしく思います。

これからも、地域医療に貢献し、高水準の医療を提供できるよう努力してまいりますので、ご指導、ご鞭撻のほどを何卒よろしくお願いいたします。

（文責：山岸 茂）

独立行政法人国立病院機構

横浜医療センター

〒245-8575 横浜市戸塚区原宿 3-60-2

TEL 045-851-2621 FAX 045-853-8359

国立病院機構横浜医療センターは、横浜市南西部地域中核病院、地域医療支援病院、神奈川県がん診療連携指定病院に指定されています。救命救急センター、ICU、CCU、SCU、小児救急、周産期センター、NICUを備えた地域の急性期型高度総合病院です。

コロナ禍も3年目に入り当初に比べ重症患者は減少しましたが、スタッフに感染者が増えてしまい、日常診療を回すために別の苦労が増加しました。外科かかりつけ患者が感染し入院主治医となったり、感染患者の緊急開腹手術を経験したりと、外科診療とcovid-19感染診療を両立させながらの毎日でした。

高難度肝胆膵手術を専門とする藤井義郎先生が外科部長として着任され1年が経過しました。消化器内科からの肝胆膵疾患の手術依頼は確実に増加しており、肝胆膵手術高度技能医の育成も始まっています。

診療は、藤井外科部長の御指導の下、10名のスタッフが2チームに分かれて診療を行っています。2022年の主な手術件数は、乳癌切除16例、胃癌切除31例（うち腹腔鏡下手術8例）、大腸癌切除128例↑（うち腹腔鏡下手術

125例）、肝切除22例、膵頭十二指腸切除14例、腹腔鏡下胆嚢摘出84例、開腹胆嚢摘出27例、虫垂切除27例、単径ヘルニア根治術76例でした。特に大腸癌の腹腔鏡下手術数の増加が目立ちます。手術総数は663件で、コロナ禍以前にはまだ及ばない件数でした。

若手外科医にとっては、大小の消化器手術から外傷系の緊急手術まで幅広く執刀経験ができます。外科後期レジデントの育成にあたっており、現在1名修練中、今春更に2名が新規採用になります。研修医の先生たちにも外科手術の楽しさを伝えるべく、切開縫合手技以外にも、単径ヘルニアの執刀を経験してもらっています。今年は15人の初期研修医が外科を研修しました。今後も外科医になる若手を増やせるように尽力していきたいと思っています。

今後とも地域で選ばれる病院になるべく、スタッフ一同協力しあって日々診療を頑張っていきたいと思っています。同門会の先生方には今後とも御指導、御協力の程どうぞよろしくお願い申し上げます。

（文責：松田悟郎）

伊東市民病院

〒414-0055 伊東市岡 196-1

TEL 0557-37-2626 FAX 0557-35-0631

2022年も当院は消化器腫瘍外科から神谷と、地域医療振興協会内の異動で城野医師、天池医師、地元出身の小倉医師の常勤4名、協会で連携施設からの専門専攻医1名の計5名で診療をおこなってまいりました。この数年スタッフ数が安定したことで手術件数の増加や緊急手術にも対応できるようになり他院への搬送はほとんどなくなりました。とは申しまして5名のうち3名は55歳以上であり、今後の体制に頭を悩ませています。

1年間の手術件数は331件で前年より減少しました。前年は初めて大腸癌の根治手術が50件を超えたのですが2022年は約30件になったことが響いています。COVID-19の影響も少なからずあったと思います。重点医療機関ということで第7波第8波の時に病床逼迫とスタッフの感染でそれぞれ1週間ほど手術ができない時期がありました。外科スタッフは4人が順番に全員感染しましたが全員軽症で、一斉ではなかったため業務への影響はそれほどではありませんでした。

最近当院では特に大腸癌や乳癌での高度進行例が多くなっています。原因としてCOVID-19による受診控えや検



診の中止等もあると思いますが伊豆半島での検診受診率の低さが際立っています。Breast awarenessをはじめとした予防医学の重要性を痛感しており、今後重点をおいて診療に従事したいと考えています。本年もよろしく願いいたします。

写真は当直明けの午後に病院から歩いて10分ほどの丘の上から撮ったものです。大室山、小室山、桜、ミカンをもとめて眺めることができ“これぞ伊豆！”と思い紹介させていただきました。外はこんなですが一歩病院に足を踏み入ると年間4000台以上の救急車、外来、手術、HCUなどの業務に追われ、病院の中は他の関連施設となんら変わりはないのになあ、と日々感じています。

（文責：神谷紀之）

横須賀市立市民病院

〒240-0195 横須賀市長坂 1-3-2

TEL 046-856-3136 FAX 046-858-1776

I. 当院は前の東京オリンピックの前年、昭和38年（1963年）12月横須賀市立武山病院として開院しました。以来50余年になる、横須賀市・三浦半島西部地区の中核的病院です。

西には豊饒の海相模湾、東には半島随一の頂、大楠山を望む風光明媚な場所に位置しています。病棟から仰ぎ見る三浦半島の山並みはなかなかのもので、最上階の和食レストランから望む相模湾越しの絶景もよいものです。

横浜横須賀道路の料金改定や平成29年に近道が出来たことで横浜周辺からもぐっと近く、より経済的に通勤可能になっています。

2022年度のメンバーは管理者・関戸仁（昭58）以下、副院長・診療部長の長嶺弘太郎（平6）、中山岳龍（平20）、藤原大樹（平24）、池田孝秀（平27）、日大出身の杉浦浩朗（平6）ら個性溢れる面々で日夜診療に励んでいます。

II. 今年度もコロナに対する県の重点医療機関としての診療に従事しました。この危機に際し、微力ながら公設病院の責務の一助を成したと思っています。

外科診療に関しては高齢化社会の波を受け、高齢者の重篤な症例も本当に多くなってきました。

患者さん、そしてそのご家族の期待に応える困難さを痛感していますが、これら困難な症例にも一丸となって対応しています。

年間の手術症例は350例ほどですが、術者はほぼ若手ローテーターですので、十分な手術経験、修練が積



2022年度（令和四年度）メンバー（2023年3月撮影）

めます（最近のローテーターに確認して頂ければ…）。

医局員の皆さん！是非我々と一緒にここで働いてみませんか。

開院以来周辺住民の皆さんから熱く信頼されている地域密着型の病院です（来れば本当に実感します）。必ず皆さんのやる気をおこさしてくれる病院です。

そして厳しく、激しい仕事の後には横須賀、三浦半島のグルメを堪能してください。もちろんデートスポットも海沿いを中心としてたくさんあります。最後になりましたが、同門の先生方におかれましては新年度も引き続き、ご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。野球のWBC優勝の余韻もさめやらぬこの3月末日、この駄文に触れていただいたすべての方に感謝申し上げます。

（文責：長嶺弘太郎）



茅ヶ崎市立病院

〒253-0042 神奈川県茅ヶ崎市本村 5-15-1

TEL 0467-52-1111 FAX 0467-54-0770

茅ヶ崎市立病院赴任から4年が経過いたしました。プロジェクトリーダーとして進めてきた外来化学療法室建設も終了し2022年4月にローンチ、前年比最大23%増の件数で順調に稼働しています。当科専門外来も化学療法室に併設する3ブースが新設され、今年度も個人収益、科別収益（医師一人当たり）にて当科は院内1～3位を継続達成しています。

「化療室のWi-Fiで音楽映画スポーツ鑑賞、電子書籍、仕事をしながら過ごせて有意義です」「居心地の良い色彩と光の入る空間で安心して過ごせます」等の患者さんの声や、野球WBC大会ネット中継で歓声のあがる化療室の患者さん達を見ると、「治療内容」だけではなく「治療環境」というものが心のケアには重要であると感じさせられます。化療室の扉が「社会人」と「病人」の境界とはならないよう、両立支援に配慮した医療を市民へ還元していくことが重要であると考えています。

チーム医療にも力を入れた1年でした。新たに放射線治療医、放射線看護師、がん専門管理栄養士、がん作業療法士にチーム参加していただき多角的なカンファレンスが可能となりました。湘南地域のチーム勉強会にも参



加しコミュニケーションの円滑化に努めています。今後も院内全ての乳がん患者に関わるスタッフが参加できるようなカンファレンスを継続開催し、全人的ケアを目標としたチーム医療の環境整備を進めたいと考えています。

1943年、松並木生い茂る旧東海道国道沿いに素朴な木造建築「町立茅ヶ崎病院」が発足し、約80年の時を経て2016年に乳腺外科が開設。医局やOBの先生方のご尽力と共に山田顕光先生が初代部長としてこの地に乳腺専門医療の基礎を構築されました。2019年から私がその意思を受け継がせていただき、診療科実績の向上、ハード面の刷新、チーム医療の充実を目指してきました。これらのハードとソフトを活用し、今後は湘南医療圏市民全体へ当科の医療を拡大していくフェーズであると感じています。2023年度から新たに和田朋子先生が部長となります。啓蒙活動、広報活動、AYA世代対策、予防医学（検診受診率向上）等、医師会や行政との連携強化を通して当科の医療への想いが患者個人から病院全体へ、さらに病院全体から地域へと広がり、真に社会に必要とされ、社会と共に成長していく診療科に発展していくこと目指したいと考えています。これからも茅ヶ崎市立病院乳腺外科への御指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

（文責：嶋田和博）



横浜労災病院

〒222-0036 横浜市港北区小机町 3211

TEL 045-474-8111 FAX 045-474-8323

◆ 関連施設勤務者

乳腺外科部長 千島 隆司 (H.3)
乳腺外科医師 柴田侑華子 (H.27)
乳腺外科医師 井上 栞 (H.27)

横浜労災病院は、横浜市北東部医療圏の地域中核病院として1991年に開設されました。現在は地域医療支援病院、災害拠点病院、神奈川DMAT指定病院、地域がん診療連携拠点病院、がんゲノム医療連携病院、横浜市乳がん連携病院として、救急・災害医療から高度がん診療までの広い分野で勤労者医療、地域医療に貢献しています。

2022年度の横浜労災病院は、新病院建設計画と相鉄・東急新横浜線の開通（2023年3月18日）に伴う診療圏の拡大など、病院の運営方針や将来構想で大きな転換期を迎えています。新横浜は神奈川県央地区から東京都心、さらには埼玉までの広大な鉄道ネットワークのターミナル駅となります。当院でも旭区、瀬谷区からの患者さんの受け入れ準備を進める一方で、神奈川県立がんセンターと診療圏が競合するため、より先進的かつ魅力的な医療を提供することが求められます。

☆ 乳腺外科の近況報告

2022年度の横浜労災病院乳腺外科は、部長以下3名の常勤医で診療を行ってきました。2022年の手術件数は悪性腫瘍の根治手術が227件（局所再発を含む）、良性腫瘍やリンパ節生検などが19件、一次乳房再建術が19件でした。薬物治療に関しては、標準的な薬物治療に加えて、新薬治験にも積極的に参加することで「患者さんに最新の治療」を提供してきました。当院では、2023年度に向けて診療体制が大きく変わります。横浜労災病院乳腺外科を立ち上げ、発展に尽力してきた千島が2022年度で退職することになり、後任として横浜市立大学消化器・腫瘍外科の山本晋也先生（平成16年）が包括的乳腺先進医



療センター長 兼 乳腺外科部長を引き継いでくれることになりました。2023年度から新体制になっても横浜労災病院乳腺外科は、1. 乳房再建などを中心とした患者QOLを重視した診療の実践、2. 国内外の臨床試験や新薬治験などの臨床研究の推進、3. 就労問題・遺伝相談・がんの生殖医療・アピアランス相談・メンタルヘルスなど患者支援の充実、4. 病診連携の充実と高齢・併存疾患を持つ患者に対する地域包括ケアの構築を4本柱として、横浜の乳がん診療に貢献していきたいと思っています。当院では乳腺外科、消化器・一般外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、救急医療部が独立した診療科となっており、専門医を取得するための症例を効率的に経験することが出来るので、乳腺外科専門医をめざす若手医師にとっては働きやすい関連施設です。ぜひとも外科および乳腺外科専門医取得の修練施設として横浜労災病院を利用してください。2023年度以降も引き続き、ご支援ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

（文責：千島隆司）

横須賀共済病院

〒238-8558 横須賀市米ヶ浜通 1-16

TEL 046-822-2710 FAX 046-825-2103

横須賀共済病院は、古くは1906年に横須賀海軍工廠職工共済会医院として開設。戦後は海軍共済組合から財団法人共済協会、非現業共済組合連合会へ継承され、その後、国家公務員共済組合連合会（KKR）所属となった歴史のある病院です。

横須賀市、三浦半島における中核病院として、地域医療支援病院、がん診療連携拠点病院、神奈川県災害医療拠点病院、神奈川DMAT指定病院として急性期疾患からがん診療までスタッフ一同診療に励んでおります。

内閣府の戦略的イノベーションプログラム（SIP）「AI（人工知能）ホスピタルによる高度診断・治療システム」に採択され、さらに2019年～2023年まで5年連続でNewsweekに当院がWorld's Best Hospitalの一つに選ばれるなど、国内外にまで認められるようになりました。

医局からの派遣は変わらず、長堀薫院長のもと、舩井秀宣部長、野尻和典部長、医長として吉田謙一、小野秀高、南裕太、諏訪宏和、鈴木千穂、矢後彰一の9名と、救急科から1名とシニアレジデント7名の計14名が舩井部長より下の人間が2～3人ずつの5チームに分かれて診療にあたっております。

2014年4月に就任した長堀薫院長は「若手外科医が楽しんで仕事する。救急は全応需する。」ことを強調されており、若手スタッフは以前よりもさらに多くの手術を経験するようなる傾向にありましたが、COVID-19の影響もあり、2022年の手術件数は年間1,300件程度落ち込みましたが、最近は増えてきております。一方で、当直後のスタッフのoff dutyが義務化や有給休暇の取得、産休や、男性医師の育休の推進など、忙しいながらも、しっかり休むことが出来る様に努力しております。



病棟は、5チームに分かれて診療にあたっており、チーム内の受け持ち患者は臓器別に分かれていません。また、当院の研修医はやる気のある先生が多く、各チームに配属されて一緒に診療にあたっています。

これもCOVID-19による受診控えの影響か、進行癌となってから紹介、併診される患者様が多い傾向にあります。

術後のフォローアップは従来通り、横須賀医師会、近隣病院と連携して地域連携パスを適応しており、胃癌、大



腸癌、乳癌の早期癌患者は、ほぼ全症例、後補助化学療法が必要な患者様も、地域連携パスを導入して紹介していただいた先生方に見て頂く機会も増えてきております。

例年行っておりまして、毎月の地域診療所の先生方、病理、消化器内科、外科合同の消化器病カンファレンスも再開されましたが、それを発展させた形で横須賀消化器病セミナーは、本年は中止ないしはWeb開催となりました。

ハード面では、一度延期となっておりましたが、新棟建築が正式に決まり、準備を始めております。

一方で、働き方改革の波は、当院にも押し寄せており、今までは、365日外科医が当直しておりましたが、外科医が当直するのは（日）、（水）、（木）、（土）の4日となり、（月）、（火）、（金）はオンコール体性となりました。また、時間外を減らすため、土日の包交も前日の当直医と、当日の当直医の2名のみになりました。

昔の外科医は「自分が手術したら、退院まで責任をもって自分でみる。」事が良しとされてきましたが、今後は、世の中の流れで、外科医の仕事も欧米のように分担化されていくのかもしれない。

この急な体制の変化に対して、少しずつ慣れてきておりますが、今後、患者様や地域医療に弊害が出ないように、修正すべき点も出てくると思います。今後もさらなる地域医療支援、がん診療連携拠点病院として、地域医療に貢献すべく、質の高い水準の医療を提供できるように、若手外科医の教育を含めて精進する所存です。今後とも、益々のご指導、ご鞭撻のほど、何卒宜しくお願い申し上げます。

（文責：小野秀高）



横浜市立みなと赤十字病院は、横浜市民のための市立病院であり、日本赤十字社が指定管理を行う赤十字病院でもあります。

2022年度は、外科では、杉田光隆先生、佐藤圭、土屋伸広先生、田鍾寛先生、大西宙先生、村上剛之先生とシニアレジデント2名の計8名で診療を行ってまいりました。また、乳腺外科では、清水大輔先生、須藤友奈先生、木村安希先生の3名が診療を行っております。本年度は、年度の途中で急な人員減少がありましたが、様々な先生方のご協力により体制を大きく変えることなく診療を継続することができました。深く感謝いたします。

当院は、医局関連施設の一つである横須賀共済病院とともに、全国で2、3番目に年間の救急車受け入れ台数が多い施設です。それに伴い緊急手術も多く、上・下部消化管穿孔、急性虫垂炎、急性胆嚢炎、絞扼性腸閉塞、ヘルニア嵌頓、腸管虚血症など、外科医が習得すべき緊急手術を数多くこなっております。

外科では、肝胆膵グループと消化管グループの2チームにわかれ日々の診療にあたっています。肝胆膵領域では、杉田部長のご指導の元、膵頭十二指腸切除や肝切除の高難度肝胆膵外科手術を継続的に行っております。また、症例に応じて腹腔鏡下肝切除も積極的に行っております。大腸・肛門領域では、多くの症例で鏡視下手術が行われています。ロボット手術も週に1件のペースで継続的に行われており、昨年より赴任した田先生はロボット手術の術者として多数の症例を経験しています。上部領域では、佐藤が赴任以降、鏡視下手術の適応拡大をすすめています。当院は高度進行癌が症例の多くを占めていますが、本年度からは、これら進行胃癌に対してもほぼすべての症例で鏡視下手術としております。

赤十字病院としての側面と同時にがん診療連携拠点病院としての役割を果たすべく、質の高い医療を提供できるようにこれからも精進してまいります。これからもご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願いいたします。

(文責：佐藤 圭)



◆ 関連施設勤務者

主任部長 福島 忠男 (S.62)
部 長 長谷川誠司 (H.2)
上田 倫夫 (H.6)
外科医員 三宅 益代 (H.21)
荒木謙太郎 (H.22)
佐原 康太 (H.24)

済生会横浜市南部病院は横浜市と済生会の共同で建設され1983年に開院した27診療科500床の地域中核病院です。急性期医療を担うと共に地域医療機関との病診連携も推進し、神奈川県がん診療連携指定病院としてがん診療支援センター（センター長：福島）を中心にがん診療体制の充実を計っています。一方、開院から40年近く経過し、施設の老朽化・狭あい化が課題となっており、旧資源循環局港南工場跡地を移転先とし、2028年度の開院に向け準備を進めているところです。

2020年からのCOVID-19蔓延の影響を受け、ブラックジャックセミナー、ミニ市民公開講座や相談・体験コーナー等のイベントを開催できず地域の方々との交流は再開できていませんが、地域医療機関とはオンラインで連携研修会を定期的に継続して参りました。

当院は第二外科と第一外科の両医局から派遣されており、外科スタッフは第二外科からは福島忠男副院長のもと、長谷川誠司、上田倫夫、三宅益代、荒木謙太郎、佐原康太、6名、第一外科からは虫明寛行、土田知史、吉田達也、白井純也、瀬上顕貴、神谷真梨子、坂口裕介、田中玲於奈、清水康一郎、水谷百代の10名、計16名でした。

外科手術は例年の1200件/年程度でしたが、COVID-19蔓延以降は1000件台に減少しており、食道癌2件、胃癌43件と上部に変化はありませんでしたが、大腸癌切除症

例は146件、肝胆膵系の悪性腫瘍手術は74件と下部と肝胆膵は1.5割弱ほど減少しました。一方、乳癌は86件から129件と増加しました。良性疾患はヘルニア関連手術218件、虫垂炎84件、イレウス39件と例年通りの件数に回復しました。今後、COVID-19の影響も薄れる中、以前の治療水準に回復すべく尽力していきと思っています。

薬物療法は外来薬物療法センター（センター長：長谷川）を中心に施行しています。院内全体で、2015年は年間4000件程度でしたが、2022年は6300件に達し、その4割超を外科が占め、単科としては最多を維持しています。本年、16床と3床へ増床したものの治療件数は増加する一方で、課題である時間外診療や患者様・医療スタッフへの負担の軽減は一時的であり、引き続き外来薬物療法の円滑な運営、質の向上のため、創意工夫しています。

福島は副院長に総合患者支援センター（入退院支援、福祉医療相談、地域医療連携、患者サポート、病床管理）、がん診療支援センターや臨床研究支援センター長も兼務しており、これら各センターも順調に運営されており、地域連携、がん診療、教育など当院の中枢を外科が担っています。

2028年度の新病院開設に向け、がん診療連携拠点病院の認定取得を目指し、また、救急センター機能の充実・強化を図るなど、周到的計画・準備を進めていますが、今後も地域医療支援病院として、また、がん診療連携指定病院として医療情報共有と高度医療の提供、がん診療体制の充実及び地域との連携活動を推進し、患者様の信頼に応えられるような地域トップクラスの医療を目指していきと思っています。これからもご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。

（文責：長谷川誠司）

地域医療推進機構 (JCHO)

横浜保土ヶ谷中央病院

〒240-8585 横浜市保土ヶ谷区釜台町 43-1

TEL 045-331-1251 FAX 045-331-0864

JCHO横浜保土ヶ谷中央病院となり9年目となりました。病院規模は変わらず許可病床数260床（稼動病床数246）で患者さんは主に近隣の保土ヶ谷区、旭区、神奈川区の方が多く、地域に密着した医療・健診・福祉の総合施設として機能しています。H31年度に就任された池院長のもとコロナ禍を何とか乗り越え、引き続き精進して参ります。乳腺外来は非常勤として足立祥子先生に来ていただき、外来のみならず手術も施行していただいております。外科病床は36床、対象疾患は例年同様で消化器癌が中心ですが呼吸器疾患（気胸、肺転移）、血管外科（AAA、ASO、シャント、下肢Varixなど）の治療も行っております。昨年手術総数は400件前後でした。縮小手術としての腹腔鏡手術を積極的に行う一方、高度進行癌に対して

も術前化学療法や化学療法後のadjuvant surgery、conversion surgeryなども積極的に行っております。相変わらずかなりの高齢者、かなりの進行癌が多く術後管理に難渋することもあります。退院支援の担当各所とも密に連携をとりつつ、元気に帰っていただくことにもやりがいを感じております。他科の先生方やコメディカルの方々との連携が良いという、中規模病院ならではの強みを最大限生かして診療に当たっております。来年もまた医局の先生方のお力をお借りし、周辺地域の医療機関との連携を深め、一層地域医療に貢献していきたいと考えております。益々のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

（文責：谷口浩一）

横浜掖済会病院

〒231-0036 横浜市中区山田町 1-2

TEL 045-261-8191 FAX 045-261-8149

横浜掖済会病院は全国8か所にある掖済会病院の1つで、もともとは船員の方のため、1896年（明治29年）に当時の横浜海員寄宿所内に病室を設け患者を収容することとしたのが起源ですが、第2次大戦後は船員の方のみならず地域住民の皆様の医療の充実および健康の増進に尽力し、さらに社会福祉の面でも貢献しております。

令和4年4月から佐藤芳樹先生（副院長）、山口直孝（平成13年卒）、前橋学先生（平成24年卒）の常勤3人で診療を行っています。

手術症例数は、主に鼠径ヘルニア115例（腹腔鏡103例、前方法12例）、腹壁癭痕ヘルニア4例、胆嚢摘出術25例など、205例と多くはありませんが、今までの方針に沿い、rotatorの先生に手術を執刀していただく機会を確保しながら、昨年に引き続き、大腸癌の腹腔鏡手術に関しては、横浜市立大学附属市民総合医療センターの渡邊純先生に来院していただき、また、胃癌の腹腔鏡手術に関しては南大和病院の高川亮先生に来院していただきご指導いただきました。水曜日には横浜市立附属病院の松山隆生先生に非常勤で来ていただき、腹腔鏡下胆嚢摘出術や開腹

手術（胃癌、大腸癌）などの手術を行うことができました。今年は、金曜日の午前中に非常勤で来ていただいた木下颯花先生（平成28年卒）に、主にヘルニア手術にはなりますが、執刀していただき、当院で行っている高位腹膜切開による腹腔鏡下鼠径ヘルニア根治術の手技を習得していただきました。

横浜掖済会病院の基本理念は、『掖済（導き・助ける）の精神に基づき、安全・信頼・敬愛の医療を目指す』です。「掖済」とは腋に手を添えて助けることを意味しています。患者様とのコミュニケーションを大切に、患者様中心の満足度の高い医療を目指しております。急性期一般病院として、また、大病院の後方支援を担いながら近隣の開業医の先生方から気軽に患者様をご紹介いただける病院を目指しつつ、新病院移転に向けて今後もなお一層努力を続けていきたいと思っております。

これからもご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願いいたします。

（文責：山口直孝）

NTT東日本関東病院

〒141-8625 東京都品川区東五反田 5-9-22
TEL 03-3448-6557 FAX 03-3448-6558

NTT東日本関東病院の近況報告です。2022年度から消化器・腫瘍外科からは樺山1名のみの体制となっています。退任された古嶋薫先生（S54卒）が週に1度、引き続き肛門疾患の手術指導をしていただいております。

2022年度の手術件数は、緊急手術を含めて約1200件でした。特に、地域の開業医の先生方々と外科医とが直接相談できる腹痛ホットライン経由での緊急手術症例も多く、悪性疾患の症例だけでなく、急性腹症の手術も数多く行っております。

NTTの外科は上部、下部（2チーム）、肝胆膵、ヘルニア一般の5チームで編成されており、専攻医は、外科専門医はもちろん、消化器外科専門医に必要な症例を3か月毎のローテーションで経験していただいております。

大腸癌手術は原発切除が約200例/年を維持しており、直腸癌も約60例前後を維持できております。大腸癌手術数に関しては都内での症例数の比較的多い施設となっております。消化器内科が内視鏡治療に力をいれているため、院内からの紹介症例数が多いという幸運もありますが、きっちりとした外科治療ができているのも選ばれている理由だと思っております。手術は腹腔鏡手術を中心に行っておりますが、一定数開腹手術も経験できるようにもしております。ロボット支援下手術は、直腸癌手術

は既に導入済みで、毎年30例前後施行しております。今年度からはda Vinciが2台体制になりますので、それに伴い結腸癌手術も開始します。

ロボット支援下手術は、2022年12月からは術者資格が大幅に緩和されたのに伴い、消化器外科専門医はもちろん、助手経験を積めば誰でも執刀するチャンスがあります。助手資格のない先生には病院負担で助手のcertificateを取っていただいて、手術に参加してもらいます。

上部チームでも胃癌・食道癌手術もロボット支援下で行います。また、肝胆膵チームではロボット支援下膵体尾部切除を開始し、腹腔鏡下肝切除も徐々に増えてきております。癒痕ヘルニア、鼠経ヘルニア、虫垂炎症例も積極的に腹腔鏡手術を導入しており、若手でも十分に腹腔鏡手術を経験することができます。

都内で、横浜市大出身の医師がほとんどいない病院ではありますが、横浜とは異なった治療や手術手技が学べますし、下部消化管の腹腔鏡手術や消化器外科専門医に必要な症例が幅広く経験できると病院だと思います。また、コロナ禍が明けて、五反田の魅力を存分に楽しめるようになってきております。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

（文責：樺山将士）

長津田厚生総合病院

〒226-0027 横浜市緑区長津田 4-23-1
TEL 045-981-1201 FAX 045-983-3647

昭和22年、日ノ出町に診療所として開設され、昭和24年に病院に転換した日ノ出町厚生病院が当院の前身です。その後、横浜市北部の開発に伴い、昭和30年に長津田厚生病院が開設され、昭和43年には拠点を日の出町から長津田に移し、現在の長津田厚生総合病院としての診療が始まりました。

病院規模は許可病床数が190床で、うち急性期一般病床が170床、療養型病床が20床です。現在は急性期一般病床の一部を感染症病棟として使用しております。また、健診センターや人工透析センターも併設されており、地域にとけ込んだ病院として機能しています。院内では、消化器内科や循環器内科をはじめとした内科系診療科、整形外科、眼科、放射線科など他科の医師との連携も行いやすく、良好な関係の中で診療に当たらせていただいております。

外科は、昨年より森と中島の2人体制で、外来・検査



・手術と日々の診療をこなしてきました。胆嚢結石症や急性胆嚢炎、急性虫垂炎、鼠径ヘルニア、肛門周囲膿瘍、痔核などの良性疾患が対象の主になりますが、胃癌や大腸癌の患者様にも積極的に腹腔鏡下手術を行っています。幅広い診療をこなすのに外科医2名では力不足のことも少なくないため、昨年もこれまで同様、大学や関連施設に医師の派遣を依頼させていただきました。協力していただいた先生方、所属施設の先生方には大変感謝しております。

また、昨年はやや減少したものの206件の手術を施行しました。内訳は鼠径部ヘルニア80例、虫垂切除術15例、肛門疾患32例、胆嚢摘出術18例、結腸・直腸癌手術13例などでした。高齢で複数の合併症をもった患者様が多い中、安全を第一に考え治療にあたらせていただいております。

今後、益々のご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

(文責：森隆太郎)

一般財団法人

育生会横浜病院

〒240-0025 横浜市保土ヶ谷区狩場町 200-7

TEL 045-712-9921 FAX 045-712-9926

◆ 関連施設勤務者

院長 長堀 優 (S.58)

名誉院長 塩谷陽介 (S.36)

平素より、外来、当直業務において医局の皆様からサポートをいただき深く感謝申し上げます。

老健、特養を併設している当院は、急性期大病院の機能を補てんすべく、高齢者医療に力を入れているのが特色です。急性期病院と密接に連携し、治療後すぐには自宅に戻れない患者さんを当院で引き受けて治療を続けています。

さらに200床以下の当院は、訪問診療を担ういわゆる「在宅療養支援診療所」の医師との連携を結ぶことができます。当院と連携した診療所は、入院ベッドを確保しているものと認定され、医学総管理料に則り、患者宅ないし施設を訪問した際に加算を得ることができます。また、連携診療所からは、訪問している患者さんの緊急時（看取り、熱中症や肺炎など）や、レスパイト入院（一時預かり）、リハビリ入院などを当院に依頼されることになりますが、令和4年度は、患者の緊急入院依頼が激増しています。

このように連携診療所と当院が密に協力し合い、良好な連携を築くことが、そのまま地域医療への貢献につながり、地域包括医療を充実させていくものと考えています。

外来診療でも、JCHO横浜保土ヶ谷中央病院、聖隷横浜病院、医師会の先生方等、近隣医療施設からのご支援を頂き、糖尿病、泌尿器、皮膚科、整形外科、緩和ケア、小児科、婦人科、漢方内科等の専門外来を開き好評を得ています。

また、令和5年春を目途に、

◎ 胸部X線・CT画像診断支援AI

◎ 脳梗塞・心筋梗塞発症リスクの目安となるLOX-index

◎ 腸内環境のマーカーとなるインジカン検査・腸内フローラスキャン

など種々のオプションを備えた検診や、職員の福祉を視野に入れたアロマケア外来などを開設し、さらに外来を充実させていく予定としています。

この先も、医局のご支援を仰ぎながら、地域医療を充実させてまいります。宜しくお願い申し上げます。

(文責：長堀 優)

港 南 台 病 院

〒234-8506 横浜市港南区港南台 2-7-41

TEL 045-831-8181 FAX 045-831-8281

2022年度の港南台病院について報告します。医局関連としては、院長大塚（H8年卒）、常勤医朴（平成23年卒）に加えて、清水康（平成22年卒）の体制で、外来、病棟、訪問診療、手術といった業務に走り回りました。11月からは、非常勤として勤務されていた名誉教授の嶋田紘先生（昭和44年卒）も常勤医として加わっていただき、外

来、訪問診療を中心に尽力頂いております。

港南台病院は開院から44年をむかえ、建物の老朽化もかなり進んでおり、また最近ではスプリンクラーの新規設置、新型コロナ患者さん受け入れのための陰圧室化を行ったこともあり追加工事による改装が繰り返されてきました。かねてから大幅な改装の必要性が議論されてお

りましたが、東京オリンピックによる建築費の高騰、新型コロナウイルス感染症発生による将来の不透明性やそれに加え、東京オリンピックの延期、ウクライナ戦争の勃発による国際物流の停滞など、内的要因にとどまらないさまざまな影響を受け、その都度延期を余儀なくされてきました。その中で、2023年4月1日を改装工事開始とする決定がなされ、港南台病院は以降半年にわたり外来業務、病棟業務などすべてを休止し、全ての外来、病棟、訪問診療すべての患者さんの担当を法人内のよこはま港南台地域包括ケア病院に移管し、大規模な改装工事を行うこととなりました。この半年間はすべての従業員の所属もよこはま港南台地域包括ケア病院になり、大学や南部病院からお手伝いに来ていただいている非常勤の先生方も、こちらにて引き続きご勤務いただくこととなりました。

改装後の港南台病院のコンセプトについて申し上げます。これは以前から継続している考え方ではありますが、一つ目の目標は横浜南部医療圏において「唯一無二の機能を果たす」ことです。具体的には、専門医レベルの外来機能、医療介護介入の多い在宅患者への訪問診療、サブアキュートやポストアキュート症例は当然ながらレスパイトや社会的避難も含む入院病棟業務、重症症例も対

処しうる新興感染症対応、基幹病院では行わないもしくは認知症があるなどという理由などで断られてしまう手術などを、それぞれバランスよく提供することで、港南区を中心とした地域包括ケアシステムの中でユニークな機能を発揮していきたいと思っています。港南区は周辺の他の区と同様、急激な人口減少があるとともに横浜市済生会南部病院の建て替え計画も実行に移されており、これから大きく劇的に変化していきます。その中で明らかにニーズの高い分野、領域に介入して、法人のさらなる成長を目指したいと思います。もう一つの目標は、働く従業員にとって、エンゲージメントつまり愛着心を醸成でき、日々働くことで、自分自身の成長が感じられ、その成長を公平公正に評価でき、適度にDX化した組織を構築することです。

毎年の繰り返しになりますが、お困りの症例があった時ご相談いただければ、我々が提供しうることが何かないか丁寧に検討してお答えします。港南台病院改装中もよこはま港南台地域包括ケア病院にて今まで通り承ります。特に10月以降、改装が終わった時には、困りごとに対するさらなるソリューションが提案できると思います。お気軽にご相談下さい。よろしくお願い申し上げます。

(文責：大塚裕一)

松島病院大腸肛門病センター

〒220-0041 横浜市西区戸部本町 9-11
TEL 045-321-7311 FAX 045-321-7330

松島病院は1924年に横浜市西区に松島医院として生まれ、1971年に肛門科専門病院として120床を有する松島病院を建設、1987年には同じ横浜市西区に大腸内視鏡検査・治療に特化した松島クリニックを設立いたしました。1995年の阪神大震災の後に、震度7に耐えられるよう施設の補強工事を行い、2011年の東日本大震災と2020年からのコロナ禍を乗り越えてまいりました。しかし、施設の老朽化と、肛門疾患診療施設と大腸内視鏡専門施設が分かれていることで患者の方々や先生方には分かりにくくご不便をおかけしていたという実態を踏まえ、本年2023年2月に肛門科専門の「松島病院」と「松島クリニック」を一つにした「松島病院大腸肛門病センター」を同じ横浜市西区に竣工、5月6日に完全移転を果たしました。

新病院は肛門科、内視鏡科、炎症性腸疾患などに対応する専門外来、排便機能センターがひとつとなり、科の垣根を越えて診療にあたるのが可能となりました。大腸肛門科に特化した高度専門施設として、何十万人もの診療実績に基づき、最新で最善の医療を患者1人1人に行っております。日帰り、短期入院、通常手術、緊急手術に対応し、特に肛門科は「確実に治すこと」と「肛門機能の温存」を高次元で結びつけた難治性痔瘻に対する

手術を開発するなど、どのような治療がその方にとって最善かを判断し治療を行います。

更に予防医療としての健康診断や人間ドックでは最新の機器を装備し、疾患の早期発見や早期治療を推進いたします。来年には100周年を迎える松島病院ですが、これからの大腸肛門病領域で先頭を走り、先端を切り拓くことのできる病院となるよう更なる発展を目指しております。先生方におかれましてはより一層のご指導ご鞭撻をたまわりますようお願い申し上げます。

(文責：松村奈緒美)



辻仲病院 柏の葉

〒277-0871 柏市若柴 178-2 柏の葉キャンパス 148 街区 6
TEL 04-7137-3737 FAX 04-7137-3738

皆様お元気でしょうか。

久しぶりに施設だよりを書かせていただきます。市大出身の医師は今は自分と我孫子の東葛辻仲病院の院長で今度理事長になる松尾先生だけです。医局員は他大学からの医師が多い割には和気あいあいと仕事をしています。

当院は少しずつ外科系の症例を増やしております。大腸癌は150例ぐらいで腹腔鏡下の鼠経ヘルニアは200例ぐらいとなっています。当院では今まで通り肛門疾患に特化して手術を行っておりますが最近では直腸脱や骨盤臓器脱も多数行っており400件ぐらい行っています。直腸脱はデロルメ法はもとより腹腔鏡下直腸固定術も多くおこなっています。臓器脱手術も経会陰の手術を多く行っておりますが腹腔鏡下仙骨陰固定術も行っております。再発例にも積極的に腹腔鏡下手術を行っていますし、直腸脱と骨盤臓器脱合併例も多くあるのでまとめて腹腔鏡下手術で治療しています。消化器内科ではIBD患者が多

く千葉県ではおそらく1番多いと思います。そのせいかクローン病関連の痔瘻も増えています。便排泄障害の治療や直腸陰瘻、会陰形成術など変わった治療も時に行っております。よろしくお願いします。内視鏡検査は約2万件行っており、これもグループ全体で考えると3万件以上になります。7階には漢和ケア病棟もあり近隣の医療施設から紹介されることが多いです。

柏の葉キャンパスは周囲に国立がんセンター東病院があり、ほかに東京大学や千葉大学のキャンパス、さらには柏レイソルのスタジアムもありこじんまりしていますが魅力のあるところです。今年になり3名の外科医が退職し現在外科医を募集しております。私事です来年骨盤機能障害研究会の当番世話人になりました。かなりマニアックな研究会ですが皆様のご参加をよろしくお願いいたします。

(文責：浜畑幸弘)

藤沢湘南台病院

〒252-0802 藤沢市高倉 2345
TEL 0466-44-1451 FAX 0466-44-6771

藤沢湘南台病院は、昭和7年、鈴木病院として鈴木文蔵により設立されて以来、湘南東部（藤沢北部）地域の中心的病院として、医療の充実に努めてきました。現在、急性期一般病棟210床、緩和ケア病棟19床、地域包括ケア病棟30床、ICU 8床、回復期リハビリテーション病棟33床、療養病棟30床の合計330床を有しております。

現在、当院には第二外科から大木繁男先生、小泉泰裕先生と鈴木紳祐の3人、第一外科から12人の医師が派遣され、一体となって日々診療に当たっております。出身科に分け隔てなく、和気藹々とした雰囲気です。そういった雰囲気のためか、研修医（褥含め1学年8名）のうち

毎年1～2名が外科医になっております。

肝心の診療ですが、堅実に多くの定時手術を行いながら、「断らない診療」をモットーに、多くの緊急手術も行っております。それだけでなく、法人全体として「良いものはスピード感を持って、取り入れていく姿勢」を大事にしております。

具体的には

- ① da Vinciサージカルシステムを用いたロボット直腸手術
湘南東部地域で最初に導入しました。2022年末までに150例程の手術を3人の腹腔鏡技術認定医で行い、大きな合併症なく経過しております。

また、2020年6月から日本で唯一「直腸脱に対するロボット支援下直腸固定術」を開始し、30例程手術を行い、再発なく経過しております。最近では、遠方からも患者様がいらしてくださり、直腸脱を初め骨盤臓器脱の患者様の数も増えてきております。

- ② 腸活外来を続けている→

腸内細菌と消化器疾患の関連を臨床試験として始めたのですが、その勢いで外来を初めてみました。すると、東京・千葉から患者さんが



検査を受けに来てくださる様になりました。そして、今年になって、中国からも問い合わせが入り始めました。そのため、慌てて、英語を勉強し直しております…

中国語喋れる方、中国の方と知り合いたい方、絶賛大募集中です！

また、腸活外来をやっていることで、某企業さんとも臨床試験が始まりました。こちらもお興味ある方、是非お声がけいただければ幸いです。

この様な形で、新しく良いものは「やってみなはれ」の精神で試行錯誤しながら進めております。

2023年4月からは腹腔鏡技術認定医4人体制（大腸3人、胃1人）、ロボット支援下手術 プロクター2人体制で低侵襲手術を益々増やして参ります。

何かやりたいことがある方、試してみたいアイディアがある方、是非当院に遊びにいらしてください。職員一同お待ちしております。

（文責：鈴木紳祐）

医療法人社団 松田会 荒川外科肛門科医院

〒116-0002 東京都荒川区荒川4-2-7
TEL 03-3806-8213 FAX 03-3803-7224

荒川外科肛門科医院は、1985年3月16日に同門の松田好雄先生が開院され、創設38年になる有床の診療所です。肛門疾患の診断、治療、手術をはじめ、消化管疾患を診療致します。のべ患者数は約12万人です。患者さんは、神奈川、千葉、埼玉、茨城の各県、院長の出身地でもある山梨県など遠方からお見えになります。

同門では堀 嘉一郎先生、町田智之先生、諸橋正仁先生に常勤医師として、また、三井東亮先生には非常勤医師としてお勤めいただきました。さらに、金井忠男先生、犬尾武彦先生、大木繁男先生、時任敏基先生ら諸先生方が、折々にお訪ね下さいました。

ちなみに私は、土屋周二教授（2019年1月28日ご逝去）のご紹介で、当院に1991年から勤務させて頂いております。竹村 浩先生や、西山 潔先生（2022年12月2日ご逝去）方の応援があったことは有難いことでした。肛門科を診療することは当時女性医師では稀で、松田院長先生の寛大さと現在に至るまでのご指導に感謝しております。

ご子息の東京医科大学卒、松田大助医師は、確固たる信念をもち、未来志向で開拓されておられます。

1. 当院の「大腸内視鏡検査センター」では鎮静剤を用い、目が覚めると検査がほぼ終わっているなど、患者さんは楽になりました。検査は、東大病院（外科）・国際医療福祉大学三田病院（消化器センター）・東京医科大学病院（消化器内科）・昭和大学横浜市北部病院（消化器センター）の先生方が、「安全に」をモットーにご担当されておられます。昨年の業績は、それぞれ上部3,679件、下部5,151件、及び腹部超音波検査1,890件でした。
2. 炎症性腸疾患の診断・治療を担っています。肛門病変のあるクローン病の症例に、生物学的製剤をいち早く導入され、効果を認めました。顆粒球除去療法

なども取り入れて寛解を目指し、医師、看護師、患者の3者によるチーム医療を実現しています。

3. 昨年の痔疾患の手術総数は、約1,000件前後でした。四段階痔核硬化療法、痔核・裂肛・痔瘻の根治手術、直腸脱根治手術などです。特に痔瘻は214件で単純痔瘻128件、複雑痔瘻が86件であり、Hanley法は19件に施行されました。

この4月から当院の常勤は5名になります。日本医科大学病院（外科）より1名及び東京山手メディカルセンター（大腸肛門外科）より女性医師1名が加わります。

当院は、2021年4月から東大病院の卒後臨床研修プログラムに組み込まれており、若手医師と出会えるのは刺激的で学ぶところも少なくありません。良い医師を目指してほしいと願っています。

院内は徐々に改築され、内装は淡い黄色や緑などの配色が心地よく癒されます。空間は開放的で、スタッフの活気溢れる当院に、是非お立ち寄り下さい。

（文責：大高京子）



令和5年度 関連施設勤務者

(2023年4月現在)

●独立行政法人国立病院機構横浜医療センター

〒245-8575 横浜市戸塚区原宿3-60-2
TEL 045-851-2621 FAX 045-853-8359

診療統括部長 藤井 義郎 (H3)
外科部長・化学療法センター長
松田 悟郎 (H5)
外科部長 清水 哲也 (H9)
外科医長 木村 準 (H15)
医 師 後藤 晃紀 (H20) 矢澤 慶一 (H20) 木村 安希 (H25)
大石 裕佳 (H26)

●横浜市立市民病院

〒221-0855 横浜市神奈川区三ツ沢西町1-1
TEL 045-316-4580 FAX 045-316-6580

消化器外科科長 部長 望月 康久 (S62)
消化器外科医長 田中 優作 (H19)
消化器外科副医長 清水 康博 (H22) 山本 淳 (H23)
医 師 工藤 孝迪 (H27)
炎症性腸疾患 (IBD) 科 科長・部長 (炎症性腸疾患センター長)
小金井一隆 (S61)
炎症性腸疾患 (IBD) 科部長
辰巳 健志 (H12)
乳腺外科科長 部長 嶋田 和博 (H15)
医 長 門倉 俊明 (H18)

●藤沢市民病院

〒251-8550 藤沢市藤沢2-6-1
TEL 0466-25-3111 FAX 0466-25-3545

副院長 診療部長 診療科主任部長
ゲノムセンター副センター長
山岸 茂 (H7)
専門医長 牧野 洋知 (H8) 南 裕太 (H13) 浅野 史雄 (H17)
森 康一 (H21) 佐原 康太 (H24) 千田 圭悟 (H24)
乳腺外科 診療科部長
菅江 貞亨 (H12)
呼吸器外科診療科主任部長
吉本 昇 (H5)

●伊東市民病院

〒414-0055 伊東市岡196-1
TEL 0557-37-2626 FAX 0557-35-0631

副病院長 兼 診療部長 兼 外科部長
神谷 紀之 (H4)

●横須賀市立市民病院

〒240-0195 横須賀市長坂1-3-2
TEL 046-856-3136 FAX 046-858-1776

管 理 者 関戸 仁 (S58)
副病院長 長嶺弘太郎 (H6)
主任医長 中山 岳龍 (H20)
医 師 藤原 大樹 (H24) 堀 達彦 (H26)

●茅ヶ崎市立病院

〒253-0042 茅ヶ崎市本村5-15-1
TEL 0467-52-1111 FAX 0467-54-0770

乳腺外科部長 和田 朋子 (H20)
乳腺外科医師 村上 剛之 (H26)

●横浜労災病院

〒222-0036 横浜市港北区小机町3211
TEL 045-474-8111 FAX 045-474-8323

包括的乳腺先進医療センター長 乳腺外科部長
山本 晋也 (H16)
乳腺外科医師 井上 栞 (H27)

●横須賀共済病院

〒238-8558 横須賀市米ヶ浜通1-16
TEL 046-822-2710 FAX 046-825-2103

病 院 長 長堀 薫 (S53)
消化器病センター長 外科部長
舩井 秀宣 (S62)
外科部長 野尻 和典 (H12)
医 長 吉田 謙一 (H8) 小野 秀高 (H10) 南 裕太 (H13)
諏訪 宏和 (H15) 大田 洋平 (H16) 太田 絵美 (H21)
鈴木 千穂 (H22)

●横浜みなと赤十字病院

〒231-8682 横浜市中区新山下3-12-1
TEL 045-628-6100 FAX 045-628-6101

外科部長、肝胆膵外科部長
杉田 光隆 (H5)
食道・胃外科医副部長
佐藤 圭 (H18)
食道・胃外科医長 土屋 伸広 (H20)
大腸外科医長 田 鍾寛 (H21)
医 師 阿部 有佳 (H23) 田中 宗伸 (H29)
院長補佐・乳腺外科部長・国際医療部長
清水 大輔 (H8)
医 師 須藤 友菜 (H26) 藤田 亮 (H28)

●済生会横浜市南部病院

〒234-8503 横浜市港南区港南台3-2-10
TEL 045-832-1111 FAX 045-832-8335

外科部長	長谷川誠司 (H2)	上田 倫夫 (H6)
副部長	村上 崇 (H18)	
医 長	三宅 益代 (H21)	
医 員	木下 颯花 (H27)	窪田硫富人 (H29)

●JCHO横浜保土ヶ谷中央病院

〒240-8585 横浜市保土ヶ谷区釜台町43-1
TEL 045-331-1251 FAX 045-331-0864

病 院 長	池 秀之 (S54)	
診療部長	上向 伸幸 (H6)	
部 長	谷口 浩一 (H11)	
健康管理科部長	簾田康一郎 (S60)	
医 師	有坂 早香 (H20)	中崎 佑介 (H25)
検 査 科	窪田 徹 (S61)	

●横浜掖済会病院 外科

〒231-0036 横浜市中区山田町1-2
TEL 045-261-8191 FAX 045-261-8149

副 院 長	佐藤 芳樹 (S59)
部 長	山口 直孝 (H13)
医 員	清水亜希子 (H27)

●NTT東日本関東病院 外科

〒141-8625 東京都品川区東五反田5-9-22
TEL 03-3448-6111 FAX 03-3448-6558

医 長	樺山 将士 (H14)
-----	-------------

●長津田厚生総合病院 外科

〒226-0027 横浜市緑区長津田4-23-1
TEL 045-981-1201 FAX 045-981-1205

副院長 外科部長	森 隆太郎 (H12)
医 師	中畠 雅之 (H14)

●育生会横浜病院

〒240-0025 横浜市保土ヶ谷区狩場町200-7
TEL 045-712-9921 FAX 045-712-9926

院 長	長堀 優 (S58)
-----	------------

●港南台病院

〒234-8506 横浜市港南区港南台2-7-41
TEL 045-831-8181 FAX 045-831-8281

院 長	大塚 裕一 (H8)
-----	------------

●松島病院

〒220-0041 横浜市西区戸部本町9-11
TEL 045-321-7311 FAX 045-321-7330

理事長・総院長 松島 誠 (S53)
医 師 松村奈緒美 (H5)

●藤沢湘南台病院

〒252-0802 藤沢市高倉2345
TEL 0466-44-1451 FAX 0466-44-6771

副理事長 副院長 大腸肛門病AELICセンター 副センター長
患者総合支援副センター長
鈴木 紳祐 (H19)
ERセンターセンター長 外科担当部長 (救急)
小泉 泰裕 (S61)

●関沢クリニック

〒236-0053 横浜市金沢区能見台通8-28
TEL 045-786-8852 FAX 045-786-9293

関澤健太郎 (H19)

●荒川外科肛門医院

〒116-0002 東京都荒川区荒川4-2-7
TEL 03-3806-8213

院 長 松田 好雄 (S43)
副 院 長 大高 京子 (S56)

●医療法人社団康喜会 東葛辻仲病院

〒270-1168 千葉県我孫子市根戸946-1
TEL 04-7184-9000

院 長 松尾 恵五 (S59)

●特定医療法人社団鵬友会 湘南泉病院

〒245-0009 横浜市泉区新橋町1783
TEL 045-812-2288

センター長 三邊 大介 (H2)